

『リベラルアーツ学群プログラム履修モデル集』について

リベラルアーツ学群では、2年次春学期から、専門科目の履修が本格的に始まります。この履修モデル集は、みなさんが専門科目の履修を行っていくためのガイドとして編集したものです。

履修モデル集は、各プログラムの「履修の手引き」と「履修モデル」から構成されています。

●履修の手引き

- ・「履修の手引き」には、各プログラムから履修のしかたについてのメッセージが載せられています。ある程度自分の志望するプログラムが絞れている人は、それらのメッセージを参考にして履修を行って下さい。
- ・特に、プログラムのカリキュラムが、先修条件が設定されていて履修順序に留意する必要があるのか、比較的自由に履修できるのかで、1・2年次の望ましい履修のあり方が違ってきますので、その点を注意するようにして下さい。

●履修モデル

- ・「履修モデル」とは、各プログラムの科目をどのように履修していったらよいかを、例として示したものです。各プログラムを修了するためにはメジャー32単位、マイナー16単位の科目を修得することが必要ですが、どのプログラムも、それをほかに上回る数の科目を提供しており、みなさんが、その専門分野の中でさらにテーマを絞った履修ができるようになっています。「履修モデル」とは、そうしたテーマの例にそったカリキュラムを示したものです。
- ・各プログラムの「履修モデル」ページには、そのプログラムの全科目をカテゴリーとレベルに応じて分類表示したマトリックスを記載しています。その中で「◎」のついている科目はメジャーの必修科目(教職モデルの場合は、教科に関する科目の必修科目)です。また、「○」のついている科目は、その履修モデルに該当する推奨科目です。
- ・また、「その他の推奨科目」には、そのプログラム科目以外のお勧めの科目を記載してあります。
- ・リベラルアーツ学群には、30のプログラムがありますが、この冊子には、各プログラムから提示された「履修モデル」が掲載されています。自分の関心あるプログラムの「履修モデル」をよく読んで、科目履修の参考にして下さい。

この『履修モデル集』は、みなさんが自分の学習計画を立てる際の目安として作成したものであり、モデルのとおり履修することを義務付けているわけではまったくありません。むしろ私たちは、みなさんが、Independent Learnerとして、自分の関心と視点に立って、独自の「履修モデル」を作成することを期待しています。

リベラルアーツ学群の科目編成はきわめて自由であり、内容を絞る、いろいろな分野を組み合わせる、その専門分野のさわりを学ぶ、など、さまざまな組み立て方が可能です。ぜひみなさんも、独自のテーマ性をもって自分の学習に取り組んでいって下さい。そして、「履修モデル」を通じたリベラルアーツ学群ならではの新しい学びの世界を、ともに切り開いて行きましょう。

多文化共生プログラム

履修のしかた

多文化共生は、社会の多様な人々(人種、民族、宗教、ジェンダー)どうしが、互いを理解し、違いを越えて共生していくための理論と実践を学ぶプログラムです。履修モデルには、主に3つあります。(1)外国人との共生の課題、(2)子どもやジェンダーを取り巻く課題、(3)障がい者との共生の課題。各テーマについて、心の動きや言語・コミュニケーションなど個人レベルの視点、家族や集団などの視点、さらに政策といった政府や国レベルの視点の3つの次元から学びましょう。

1年次には、「宗教学概論」や「日本の宗教・世界の宗教」など宗教に関する科目をとりましょう。また、ことばや発達心理にかかわる科目(例「多文化共生とやさしい日本語」「生涯発達心理学」)や、「実践基礎科目」の地域サービスラーニング科目や海外サービスラーニング科目もおすすめです。

(1)外国人との共生に関心のある人:

2年次の早い段階に「多文化社会論」「社会・集団心理学」などをとり、その後「日本語の多様性と社会」「異文化コミュニケーション A」「多文化共生とコミュニケーション」「国際コミュニケーション」などを学ばると良いでしょう。さらに「移民法」「国際法 A・B」「言語政策」などマクロな視点から学びましょう。

(2)子どもやジェンダーの課題に関心のある人

「生涯発達心理学」「ジェンダーとコミュニケーション」「ジェンダーの人類学」「ジェンダーの社会学」「家族社会学」「子どもと開発」などの科目を勉強しましょう。

(3)障がい者との共生に関心のある人は、「障害者(児)心理学」「福祉心理学」「心理学的支援法」や「異文化コミュニケーション A」「多文化共生とコミュニケーション」を学ばると良いでしょう。

さらに、実践力を高めるために、「多言語交流演習」や「対人援助コミュニケーション」「国際協力フィールドワーク(国内)」などをとりましょう。

他の専攻プログラムとの関係

多文化共生は、さまざまなプログラムと関わり合いがあります。言語学をメジャーにする場合には、多文化共生をマイナーにすることも可能です。また、多文化共生とコミュニケーション学、心理学、社会学、法・政治学、経済学、情報科学、文化人類学などと組み合わせることで、より包括的な学びが可能になります。どれをとっても多文化共生社会の実現と無縁の分野はありません。

留学・教職その他

公認心理師は、心理学をメジャーにし多文化共生か教育学をマイナーにすることで完成しやすくなります。

将来、教員を目指す人は、文化、人種、ジェンダー、障がいなど様々な子どもたちを教えることとなります。多文化共生プログラムをマイナーにすることで、視野を広げましょう。

多文化共生を学びたい人には、留学がおすすめです。文化的背景の異なる人とのコミュニケーションを通して、自己や他者への気づきを深め、成長することができます。在学中に、短期、長期の留学プログラムに挑戦しましょう。

学生へのメッセージ

多文化共生は、一人ひとりが幸せを感じ希望を抱ける社会の実現を目指す学問です。世界のグローバル化の流れのなかで、国連やユネスコが提唱する持続可能な社会を目指していく上でも、鍵となる概念です。多文化共生プログラムで、リベラルアーツ学群のさまざまな科目を多面的かつ効果的に学ぶことで、自身の視野を広げ、他者や社会に貢献できる力を磨きましょう。

多文化共生プログラム

1 外国人との共生について学ぶ履修モデル

近年、外国人労働者や留学生の受入拡大に伴い、日本に暮らす外国人が急増しています。しかし、日本政府は公式には「移民」の受入を認めていません。この現状は何を意味するのでしょうか。この履修モデルでは、外国人の移動の歴史を学び、言語・文化・宗教等の多様な背景をもつ人々との共生はどうあるべきかについて学んでいきます。特に、日本語での情報が得にくい外国人への情報発信のあり方、偏見・差別やコミュニケーションの課題、日常生活と宗教の関係性、外国人家庭と子どもの教育に関わる社会問題について理解を深めます。さらには、外国人の受入に関わるさまざまな法的制度や政策を学修し、外国人が日本での生活の中で直面する困難とその支援方法、また外国人の活躍できる社会にするにはどうすればよいかを学んでいきます。1年次には、実践基礎科目の「地域サービスラーニング」の多文化共生に関わる科目を積極的に履修することをお勧めします。

多文化共生プログラム科目

level カテゴリ	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
基礎		宗教学概論	2	○	社会・集団心理学	2	○	多文化共生とコミュニケーション	2			
	○	日本の宗教・世界の宗教	2	○	多文化社会論	2						
	○	多文化共生とやさしい日本語	2	○	異文化コミュニケーションA	2						
		生涯発達心理学	2	○	多文化共生の人類学	2						
理論				○	日本語の多様性と社会	2	○	移民法	2			
				○	言語政策論	2	○	国際法B	2			
				○	宗教人類学A	2						
				○	宗教人類学B	2						
				○	地域社会学A	2						
応用					人間開発論	2						
					福祉心理学	2		ジェンダーとコミュニケーション	2			
					心理学的支援法	2						
					障害者(児)心理学	2						
				○	国際コミュニケーション	2						
					ジェンダーの人類学	2						
					ジェンダーの社会学	2						
				○	家族社会学	2						
実践・演習					比較社会学A	2						
					子どもと開発	2						
					ナショナリズムとエスニシティ	2						
				○	ネゴシエーション	2		対人援助コミュニケーション	2			
							○	国際協力フィールドワーク(日本)	2			

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

- 実践基礎科目
- ・ 地域サービスラーニング(多文化共生)[2]
- ・ 地域サービスラーニング(多文化協働学習)[2]
- ・ 専攻演習I[2]
- ・ 専攻演習II[2]
- ・ 探究サービスラーニング(多文化共生)[2]

多文化共生プログラム

2 子どもやジェンダーの課題について学ぶ履修モデル

社会におけるさまざまな格差の課題、とくに貧困、教育、ジェンダーによる差別や不平等についての実態について学びます。その上で平和で平等な社会の実現していくために、我々がどのように貢献できるか考えていきます。貧困や子ども、またジェンダーについて国内だけでなく世界に目を向けて現状、心理学、コミュニケーション学、言語学、社会学、文化人類学、開発学など多角的な視点から学びます。また、基礎的知識の習得だけでなく、演習やフィールドワークをとおし自ら行動していくことを学びます。

多文化共生プログラム科目

level カテゴリー	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
基礎		宗教学概論	2	○	社会・集団心理学	2	○	多文化共生とコミュニケーション	2			
	○	日本の宗教・世界の宗教	2	○	多文化社会論	2						
		多文化共生とやさしい日本語	2	○	異文化コミュニケーションA	2						
	○	生涯発達心理学	2		多文化共生の人類学	2						
理論					日本語の多様性と社会	2		移民法	2			
					言語政策論	2	○	国際法B	2			
					宗教人類学A	2						
					宗教人類学B	2						
				○	地域社会学A	2						
応用					人間開発論	2						
				○	福祉心理学	2	○	ジェンダーとコミュニケーション	2			
					心理学的支援法	2						
					障害者(児)心理学	2						
					国際コミュニケーション	2						
				○	ジェンダーの人類学	2						
				○	ジェンダーの社会学	2						
				○	家族社会学	2						
実践・演習					比較社会学A	2						
				○	子どもと開発	2						
					ナショナリズムとエスニシティ	2						
				○	ネゴシエーション	2	○	対人援助コミュニケーション	2			
				多言語交流演習	2	○	国際協力フィールドワーク(日本)	2				

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

実践基礎科目

- ・ 地域サービスラーニング(多文化共生)[2]
- ・ 地域サービスラーニング(身近な貧困)[2]
- ・ 地域サービスラーニング(子どもと教育)[2]
- ・ 地域サービスラーニング(地域福祉)[2]
- ・ 地域サービスラーニング(性別と社会)[2]
- ・ 地域サービスラーニング(Social Justice)[2]
- ・ 海外サービスラーニング(カンボジア子ども)[2]
- ・ 海外サービスラーニング(アメリカ幼児教育)[2]
- ・ 海外サービスラーニング(マレーシア子ども)[2]
- ・ 専攻演習I[2]
- ・ 専攻演習II[2]
- ・ 探究サービスラーニング(貧困を考える)[2]

多文化共生プログラム

3 障がい者との共生について学ぶ履修モデル

この履修モデルでは、まず、障がいをもつ人を取り巻く社会環境について学び、知的・身体的発達や障がいの特性についての理解を深めます。具体的には、心理学の視点から、障がいをもつ人の心の動きや支援の方法について学ぶと同時に、コミュニケーション学の視点から、健常者の人々がとりうる態度や差別、コミュニケーション上の課題について学んでいきます。そして、障がいの有無に関わらず、人々が地域社会の構成員として、対等な関係を築き、参加していくことのできる社会とはどうあるべきかについて、多角的に考察していきます。なお、公認心理師は、心理をメジャーにし多文化共生をマイナーにすることで完成しやすくなりますが、公認心理師の資格取得については、履修ガイドの「公認心理師」の資格取得要件を必ず確認してください。

多文化共生プログラム科目

level カテゴリ	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
基礎		宗教学概論	2	○	社会・集団心理学	2	○	多文化共生とコミュニケーション	2			
		日本の宗教・世界の宗教	2	○	多文化社会論	2						
		多文化共生とやさしい日本語	2	○	異文化コミュニケーションA	2						
	○	生涯発達心理学	2	○	多文化共生の人類学	2						
理論					日本語の多様性と社会	2		移民法	2			
					言語政策論	2		国際法B	2			
					宗教人類学A	2						
					宗教人類学B	2						
					地域社会学A	2						
応用				○	福祉心理学	2		ジェンダーとコミュニケーション	2			
				○	心理学的支援法	2						
				○	障害者(児)心理学	2						
					国際コミュニケーション	2						
					ジェンダーの人類学	2						
					ジェンダーの社会学	2						
				○	家族社会学	2						
					比較社会学A	2						
実践・演習					子どもと開発	2						
					ナショナルリズムとエスニシティ	2						
					ネゴシエーション	2	○	対人援助コミュニケーション	2			
					多言語交流演習	2	○	国際協力フィールドワーク(日本)	2			

その他の推奨科目 ※[]内は単位数

- 実践基礎科目
- ・ 地域サービスラーニング(多文化共生)[2]
 - ・ 地域サービスラーニング(地域福祉)[2]
 - ・ 海外サービスラーニング(アメリカ福祉)[2]
 - ・ 専攻演習I[2]
 - ・ 専攻演習II[2]
 - ・ 探究サービスラーニング(障がい者の自立支援)[2]
- 健康福祉学群
- ・ 聴覚障害者のコミュニケーション[2]